



2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.6 SUGO GT 300km RACE REPORT

SUPER GT 2025 第6戦 SUGO 300KM RACE レースレポート

開催日：公式予選 9月20日(土)／決勝 9月21日(日)
開催地：宮城県 スポーツランドSUGO

予選レポート

前戦鈴鹿では事前のテストデータを元にセットアップを作り上げ、ドライバーも「今季いちの仕上がり」と口を揃えるほどポテンシャルの高さを実感。決勝ではミニマムでピットに入り追い上げを図る作戦だったが、ピット作業違反があったとされ、ドライブスルーペナルティが科せられてしまい、悔しさが残る21位で終えることとなった。前戦の雪辱を果たすべく闘志を燃やす9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、9月20～21日に開催された「2025 AUTOBACS SUPER GT Round.6 SUGO GT 300KM RACE」へと挑んだ。

毎年、不安定な天候に見舞われることの多いSUGO大会。今回も予選日となる9

月20日(土)は、朝から上空には薄暗い雲が覆い雨を降らせ、午前9時15分よりスタートした公式練習はウェットコンディションでの走行となった。このセッションでは、初めに乗り込んだ富林勇佑選手がメインにドライブし、早々から順調にタイムを更新。セッション中盤頃までトップ5に名を連ねていた。9周を終えると、一度阪口良平選手が乗り込んで4周を計測。ウェット路面におけるフィーリングの良さを感じていた。

セッションが進むにつれ、路面は徐々に回復へと向かったことで、ある問題が見えてくる。富林選手もスリックタイヤに履き替えて周回するも、持ち込んだスリックタイヤのマッチングが上手くいっておら



ず、ドライ路面ではタイムが伸び悩むことに。それだけでなく今年に路面が全面新舗装されたなど、いくつか考えられる要因があるだけに、その原因究明が難航していた。そんな状況もあり、ベストタイムは1分19秒949の23番手で終えることとなってしまった。トップとは1.926秒もの差が開き、予選Q2進出も厳しい状況だった。そのため、この状況を打破すべくチームと話し合いを重ねてセットアップの変更を行い、予選に向けて準備を整えた。

午後にかけても上空には分厚い雲が覆っていたものの、気温20度／路面温度26度と午前よりやや上昇し、路面は完全にドライコンディションへと回復。午後2時05分よりGT300の予選がスタートした。予選Q1のA組に出走した「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、先に富林選手が乗り込みQ2進出をかけて争う。セッション中も周回を重ねるごとに路面状況は改善されていき、後半には全体的に一気にタイムが縮まる展開となった。

富林選手は計測4周目から1分18秒台へと突入させ、連続アタックへと挑んでいく。厳しい状況ではあったが、セットアップの変更を加えたことで改善への兆しが見え始め、終盤には1分18秒197をマーク。タイミングモニター上でカットライン上

に浮上し、9番手でなんとか予選Q1を突破させて阪口選手にバトンを繋ぐことができた。これには富林選手も「グリップも厳しい状況でしたが、思い切ったセットアップにしたことで次に繋ぐことができました。みんなが準備してくれたおかげで自分の力を発揮することができたので良かったです」と振り返っていた。

そして今度は阪口選手が乗り込み、予選Q2へと挑んだ。雨も心配されていたが、なんとか持ち堪え予選Q1同様にドライコンディションでのアタックが叶った。阪口選手はそれを活かして自己ベスト更新を目指し、終盤には1分19秒台を連発。最終的には1分19秒015まで短縮することに成功したが、セクター1～2でややミスがあり、思っていたタイムを出すには至らなかった。グリッドは17番手となったが、公式練習よりはクルマの改善が見られたことで、決勝に向けてドライバーのモチベーションも上がっていった。

予選を終え、前戦同様にピット作業違反の再発防止に向けて、ピットではドライバー交代の練習や中日本自動車短期大学(NAC)の学生メカニックもタイヤ交換をはじめとしたピット作業の練習を実施。阪口選手も「新しい作業をするメカニックもいますし、場所が変わるとまた要領も変わってくると思うので、僕たちドライバーも率先して手伝っていきたいですね」とコメント。チーム全員で入念に確認作業を行い、ドライバーも様々なことを再確認できたようで、決勝に向けてさらに期待をもたせる一日となった。



決勝レポート

迎えた決勝日の9月21日(日)は、前日までと打って変わって朝から太陽が差し込んでいたが、前夜に降った雨の影響で午前にはウェット宣言が出されていた。しかし、徐々に路面は回復へと向かい、所々ウェットパッチが残っているものの12時に開始したウォームアップ走行はドライコンディションでの走行となった。ライバルも同様ではあるものの、この週末は完全にドライな状況で走ることができておらず、レースペースが確認できていない9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は、この時間を使いレースペースの確認を実施。赤旗中断があったものの、ふたりのドライバーがそれぞれ乗り込んで確認作業および決勝に向け再調整を行った。



ウォームアップ中に赤旗中断があった影響により10分遅れでスケジュールが進行し、午後1時40分にレースの幕が開けた。今回は富林選手がスタートドライバーを務め、好調な蹴り出しを見せて16番手でオープニングラップを終える。タイヤをすりつつも追い上げを図ろうとしていた矢先、14周目にまさかの事態が襲う。16番手を走行中に1コーナーで61号車「SUBARU BRZ R&D SPORT」と接触しスピンを喫してしまう。すぐにエンジンがかからず、24番手まで順位を下げることになってしまった。

それでも幸い大きなトラブルなどとはなかったため、レースに復帰後は富林選手が引き続きステアリングを握り走行を続行。その後FCY(フルコースイエロー)を挟む展開で少々荒れたレースになるも、28周を終えると次々にピット作業を遂行するライバル勢が現れ始める。9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」は前戦と異なり、スタートドライバーの富林選手がロングスティントを担当し引っ張る戦略をとり、できる限り追い上げを図った状態で阪口選手へと繋ぐことにした。



多くのチームが義務のピット作業を終えていく中、45周目にホームストレート上で複数台が絡む大クラッシュが発生。ピットレーン入り口のガードレール修復およびコース整備に時間を要することに。約1時間の中断を経て、レースは16時にリスタートが宣言された。本来の周回数は84周であるが、最大延長時間である16時30分が先に迫り、残り30分間の勝負へと移行された。SC先導であったが、ピットレーンがオープンとなり50周目に9号車「PACIFIC アイドルマスター NAC AMG」はピットへ入りタイヤのみを交換した。

SC中におけるドライバー交換は禁止されているため、引き続き富林選手がコースへと復帰していく。そしてSC解除とともに再び52周目にピットへと帰還し、阪口選手へとバトンを繋いだ。この間に給油作業も行ったが、前戦の課題であったピット作業も前日に行った練習の成果を見せて完璧な作業で送り出すことに成功。16番手で復帰した。前を走る0号車「VENTENY Lamborghini GT3」とは1秒以上の差があったが、1台を抜けばポイントを持ち帰ることができるため、終盤はフレッシュなタイヤを活かして阪口選手がじわじわと詰め寄っていく。

最終盤には0.5秒ほどにまで迫っていたが、クルマのペース的にもオーバーテイクにまでは至らず、最終的に16位でチェッカーを受けた。ポイント獲得にはあと一步届かなかったが、前戦の反省点を活かしてチーム一丸となって最後まで走り抜くことができた。さらに序盤は接触やアクシデントといった不運にも見舞われたが、予選グリッドを上回る順位でのフィニッシュに繋がった。クルマこそ改善の余地はあるものの、前戦よりもチーム力を実感できる一戦となった。

今回はタイヤのマッチングがうまく噛み合わず、レースウィークを通して苦戦を強いられることとなってしまったが、チームにとって今後生きてくるはずだ。次戦は、第2戦富士以来となる藤原優汰選手がステアリングを握り、3名体制で挑む。約1カ月後の10月18～19日に大分県・オートポリスにて開催される第7戦オートポリスでは、今回を上回るリザルトを獲得すべく準備を進めていく。



Comment



総監督 岡田健司

今大会も多くのご声援を頂きありがとうございました。前回に比べると厳しい状況であったにも関わらず予選Q1を突破し、決勝レースでも荒れた展開の中でチーム一丸となって戦い抜いてくれました。残念ながらポイント獲得には至りませんでしたが、チーム力が光る一戦となりました。次戦オートポリスは、3名体制といつも以上に強力な体制を敷いて戦っていく所存ですので、引き続き熱いご声援をよろしくお願いいたします。

今回はタイミングが難しく接触などもありましたが、トラブルもなく終えることができました。ピット作業でもメカニックたちの練習した成果が現れているのを感じましたし、課題もありましたが前回の課題は克服できたのでプラスな要素です。どのレースでもゴールして得るものがあると思っていますし、みんなでゴールした時の喜びを感じつつ、成長できるようなレースにもなったと思っています。今回を終えて、やはり一発の速さだけを追求すると乗りにくい部分もあるので、ロングランでも速さがあるクルマを作らなければならないと思っています。次戦オートポリスは3人で走るので、チームと話しながらしなやかかつロングランでも速さを出せるクルマ作りをしていきたいです。



阪口良平 選手



富林勇佑 選手

レースでは予想通り辛い展開でしたが、結果的に赤旗中断などがあった中で順位を回復することができましたし、学生メカニックたちみんなが素早いピット作業で送り出してくれたおかげで、予選より上の順位を終えることができました。今回はタイヤのマッチングにとっても苦労しましたが、予選でQ1突破できたこととポイント目前まで追い上げられたことはとても嬉しいです。次戦オートポリスは去年の予選も6番手を獲得しているサーキットでもありますし、藤原選手も加わるので3人で力強い走りができれば上位も狙えると思っています。トップ10入りをして、最終戦のもてぎに臨めるようにしていきたいです。





PARTNER



SPONSOR

